



伊東 寿充 議員

### 魅力的な地域資源の 保全と有効活用によつ て全市域に活力創出 を！

#### 高山祭の維持・継承に ついて

重要な地域資源である伝統文化は、担い手不足や資金不足により維持継承が困難な状況にある。特に高山祭においてはユネスコ無形文化遺産登録に向け、社会的責任も増す中、文化を尊重した上で、人員、資金、システム等、多角的な視点で維持支援策を拡充すべきでは。

#### 域学連携について(大 学と地域との連携)

国内外の評価が更に高まるなかで、一層維持継承についての負担が増す事が懸念される。各団体等との協議を進め、より良い支援策を検討していく。

ている。環境保全とのバランスをとった上で、地域資源の有効な活用とは程遠い状況にある。

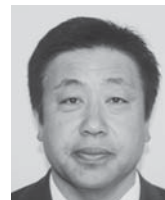
入込数の減少は環境保全税の減収による保全費用の減少や、体験による保全啓発効果の縮小にも繋がる。環境保全を前提とした段階的な規制緩和による利用推進策に早期着手すべきではないか。

限定的な緩和は乗鞍岳の価値向上と、懸念される支所地域の活力創出にも繋がる。

近年の入込者数の減少は深刻な問題として受け止めている。

#### 中部山岳国立公園乗鞍岳の環境保全と活用 について

またマイカー規制以降数年の入込者数(20万人程度)は自然環境の回復傾向からみても適正収容力の範囲内と考えられる。提案の手法も踏まえ関係機関と共に、自然保護と地域振興の両立を図りながら、マイカー規制緩和のあり方について研究を進める。



谷村 昭次 議員

### 生涯現役活躍への対応 まちづくり条例での 紛争調停制度

#### 生涯現役で活躍し続け られる雇用・就業環境 の整備

「生涯現役社会」の実現に向けた雇用の整備に関する検討会」報告書が出された。市における高齢者雇用・活躍の場の確保やシルバー人材センター機能強化に関する現状及び今後の対応は、また非常勤職員の継続就業期間5年の見直しの考えは。

国内や県と連携し高齢者(65歳以上)の雇用・就業環境をさらに整えるようにする。また、シルバー人材センターの事業についても継続して支援する。

市非常勤職員の就業継続期間については見直す予定はない。

ているが、法的拘束力を持たない制度の創設は考えていない。

#### まちづくり条例での紛 争調整制度の取り入れ

大規模開発事業等における紛争等の解決には、互いの存在意義・意思を認識したうえで「歩み寄り」が必要である。美しい景観と潤いのあるまちづくり条例に、岡崎市等が取り入れている紛争調整制度を取り入れる必要があるのではないか。

なお、本年9月議会の答弁における、事業者の当事者責任による課題解決では多様な主体が協働でまちづくりを考えるルールとして不備があると考えられる。さらに行政が事業者となりうる場合にも配慮すべきと思うが。

他自治体には同類の紛争調整制度が存在し

おもてなしの心や安心が伝わる観光地づくり

困おもてなしの心遣いとして「公衆トイレ等」の設置や案内について、特に市街地東地区と、登山届箱のある山岳観光地(新穂高・焼岳登山口界限)付近の考えは。

市街地東地区については既存トイレの配置状況(半径500m範囲)から新設する予定はない。また、消防団車庫における一般開放公共トイレなどを公衆トイレとして利用することは課題を整理し検討をする。

山岳観光地では特に新穂高センターや鍋平公園のトイレ利用を優先し、ドライブマップ・ホームページ等による周知を行うほか、臨時仮設トイレでの対応を検討する。